

ワールド 東北に新工場建設 プラ成形部品を生産

端子台を製造販売するワールド(相模原市緑区橋本)は、宮城・登米市にある「東北工場」の敷地内に第2工場を建設する。年内に着工し、2013年3月にも稼働させる。内製化策の一環という。

(千葉 龍太)

東北工場の敷地面積は約9500平方メートル。現在は相模原にあった本社の生産機能を集約させており、同社の主力工場として位置づけられている。

敷地内に設ける新工場は、建築面積1000平方メートル程度を予定。端子台で使用するプラスチック部品の成形ラインを導入し、そこで生産する。

これまで外注していた部品生産の内製化を進めることで、コスト削減と納期短縮の相乗効果を狙う。新工場建設にかかる総投資額は約2億円となる見込み。

阿部慎也社長は「将来的には内製化の範囲を金

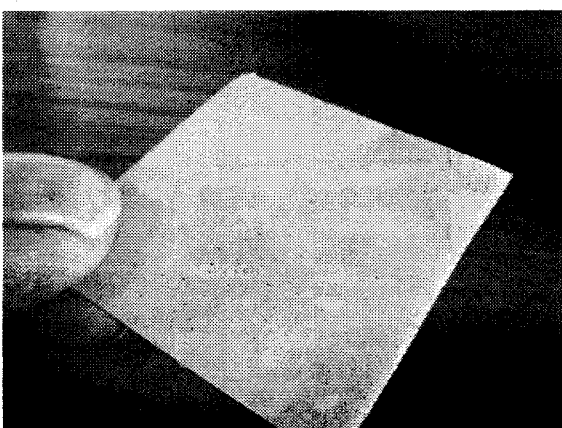
型や治工具にまで広げた」と話した。また、第2工場の稼働後は、プラスチック成形などのノウハウを積むことで、端子台の製造以外にも受注の幅を増やしたいとしている。また、新工場建設に

踏み切る理由として阿部社長は「景気が持ち直さない」今の時期にやるからこそ、いずれ回復したときの成長や差別化につながる」とも説明した。

同社は基板などで電線

の接続や分岐、接続に用いられる端子台を手掛ける。1300種類以上の多品種を生産しているという。産業機械向けの製品が主力。

一方、同社は11月26日に本社も移転した。新本社の住所は、相模原市緑区橋本5-17-20エターナルK3F。042(703)6201。



SICで放熱シート

ドライム 絶縁性持ち高機能

アイルドリーム(相模原市中央区すすきの町)は、素材にSIC(炭化ケイ素)を使いながらも

電気を通さない絶縁性を併せ持った高機能の放熱シートを開発した。写真

パワーデバイス、電気自動車(EV)などの熱対策に使用する。稼動時に部品から発する熱をシ

トで放出することで、機器を安定させる。放熱性能の範囲は、マイナス40度C〜240度Cまで。シリコンを用いた従来型の放熱シートと比べ、5割以上の放熱性を実現させたという。

耐熱性や難燃性を持ったSICの粉を、同社で特殊加工してシリコンに配合した。粉の配合や混ぜ方などを試行錯誤し、開発まで約半年間を要した。宮城武文社長は「絶縁性を持たせたSICシートは業界初なのは」と話した。すでに大手電

機メーカーなどで出荷を始めた。放熱性器などに組み込み込み込み、高い放熱性機器の動作が安定体制とともに量産体制を目指す。宮城「同製品だけでなく、目指したい」と

同社はインク、部品や医療部品を、発を手掛ける企業に複写機メーカーの路を持つ。問い合わせ、同社042(375)03755。

大丸製作所 金属製パレットの試作 最短1週間で納入

板金加工の大丸製作所(相模原市中央区田名)は、金属製パレットの試作・改修事業を強化する。

専門のホームページ(www.daimaru-ss.com/palette)を開設したほか、注文を受けてから最短7日で納入できるよう、社内体制も整えた。

建設機械や自動車部品業界など向けに提案する。同事業の2013年

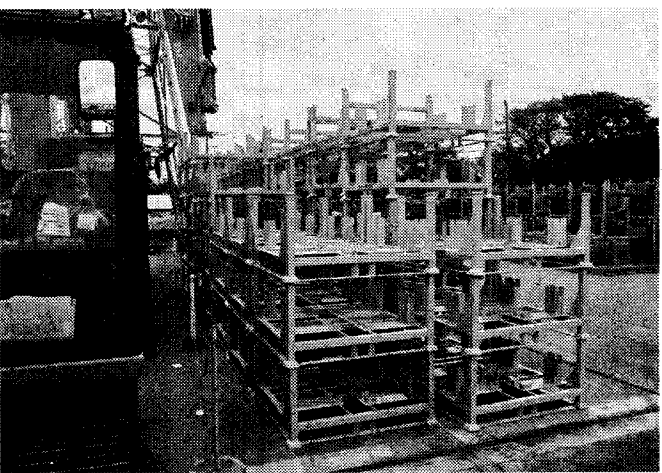
度の売上高を昨年度実績の1.5倍にあたる7500万円まで引き上げる計画だ。

金属製パレットは、作業現場での搬送や工場間の製品輸送などに用いられる。自前でパレットを作製できる技術者がいる工場もあるが、最近では高齢化で減少しているという。

大丸製作所はパレットの注文をオーダーメイド

で受け付ける。同業者と比べても、納期を大幅に短縮したという。壊れやすい製品をパレットに載せる場合は、内部にゴムや樹脂などの緩衝材を使用。用途に応じ、1品1品つくり分ける。工場にあるパレットの改修も行う。

同社の杉田豊範社長は「専用パレットの製作で25年間のノウハウがある。建機や自動車だけで



要望に応じて最適なパレットを製作

なく、いろいろな業界から注文を受けたい」と話

していた。同社042(761)6113。

中小企業家同友 経営研究 相模原で 県中小企業家(本部・横浜市)11月21日、「全県集会」を相模原鶴間本町のホテール千寿閣で開催。25回目と写真。25回目と「進化する企業」がテーマ。域から会員約200名が参加した。相模原

相模原

ド